

平成30年度 第1回津幡町総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成30年6月21日（木） 開会15時30分～閉会16時43分

2. 場 所 津幡町文化会館 1階 研修室

3. 出席委員（6人）

町 長 矢 田 富 郎

教育委員会 教育長 吉 田 克 也

委 員 山 本 祝 男

委 員 鳥 越 千 春

委 員 正 元 喜 博

委 員 大 西 寿雅子

4. 欠席委員（0人）

5. 出席説明員等

学校教育課長 羽 塚 誠 一

6. 事務局職員

総 務 部 長 石 庫 要

総 務 課 長 吉 田 二 郎

教育部長兼教育総務課長 竹 田 学

教育総務課課長補佐 細 山 美 幸

教育総務課庶務係長 藏 本 あゆみ

教育総務課施設係長 安 多 剛

7. 協議・調整事項

(1) つばた幼稚園の運営について

(2) その他

8. 協議・調整事項の経過等 以下のとおり

〔開会〕 15時30分

○竹田 学教育部長 皆さんおそろいですので、ただいまから津幡町総合教育会議を開会いたします。この会議の議事進行につきましては、今回お配りしてございませんけれども「津幡町総合教育会議の運営に関し必要な事項」で、教育部長が議事進行を務めるとなっていますので、私のほうで議事を進めさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは開会にあたりまして、矢田町長からごあいさつをお願いいたします。

○矢田富郎町長 皆さんこんにちは。お忙しいところありがとうございます。

梅雨とはいいいながらあまり雨が降らないものですから、さほど気温も高くもなく大変に過ごしやすい梅雨かなと、でもそのうちにきっと雨も降るのだろうなとある意味では心配もしております。その後には暑い夏もやってきますので、十分にご自愛をしていただきまして、暑い夏を乗り切っていただきたいというふうに思います。

教育委員の皆さま方には、日ごろから当町の教育行政に対しまして、大きなお力添えをいただいておりますことを、この場をおかりしまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

成人が20歳から18歳になるということで、言うのは簡単ですけど、成人式をどうするのかという話が今出ております。それならこの際に要望もあるし、冬の1月の成人式にする機会なのかなという話をしましたら、18歳の成人式というのは高校3年生で大学入試の直前で一番忙しい時期になってくると、そうなるこれから他の市町も成人の日の第2月曜日を外すようなことになってくるんじゃないのかなと思っております。そうすると3月の下旬ぐらいの日曜日が一番いいのかなと、これから教育長さんともいろいろ相談をさせていただきながら最終的に日だけを替えるのではなくて、間の人たちの成人式、18歳の成人式、19歳の成人式、20歳の成人式と、1年の間に3つしなければいけないことになるのかなというふうにも思っております。なにはともあれ2022年ですか、まだ4年先の話ですが、どうすればいいかじっくりと考えていきたいと思っておりますので、いろいろとご相談に乗っていただきますよう、よろしくお願いします。

さて、この総合教育会議も4年目となりました。今年度は初めての会議ということになりますけれども、いろんなご意見をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げる次第でございます。本日の協議は、つばた幼稚園の運営に関しまして、教育委員の皆さん方の考え方をお聞きたいということで提起させていただくことになりました。忌憚のないご意見をいただきながら判断をさせていただくようなことになろうかと思いますけれども、よろしくお願いします。

○竹田 学教育部長 ありがとうございます。引き続き吉田教育長お願いいたします。

○吉田克也教育長 この総合教育会議も平成27年度からスタートいたしまして、今回が6回目

となります。これまでも本町の教育行政に関する重要な施策につきまして、いろいろと他の部局とも意見交換させていただきました。今年度も津幡町の教育振興計画に則って、重点施策を決定したところです。特に、国際交流活動の推進、学力向上、そして安全安心な教育環境の整備などに力をいれてまいりたいと思っております。今後ともこの貴重な機会にさまざまなご意見を皆さんから出していただきながら、町全体での方向性、具体的なことを決めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

本日は、矢田町長からもお話がありましたとおり、つばた幼稚園の今後につきまして、皆さんで考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○竹田 学教育部長 ありがとうございます。本日の協議・調整事項につきましては、つばた幼稚園の運営についてです。

今回は、説明員としまして、羽塚学校教育課長に出席していただいております。

それでは、協議・調整事項に入らせていただきます。まず、羽塚学校教育課長から本日の配付資料について簡単な説明していただきまして、その後、つばた幼稚園の運営につきまして、教育委員会の意見の報告もさせていただきたいと思っております。

それでは、羽塚学校教育課長お願いします。

○羽塚誠一学校教育課長 それでは、私の方からつばた幼稚園の運営について、お手元の資料で説明させていただきます。説明に入ります前に資料の確認ということで、資料の説明をさせていただきます。1枚目の資料1が「平成33年度につばた幼稚園が閉園する場合の流れについて（案）」になります。続きまして資料2は「平成33年度につばた幼稚園が閉園する場合の園児数の推移等について（案）」になります。続きまして資料3は、これは3ページにわたりまして「津幡町立つばた幼稚園歳入・歳出決算一覧」「津幡町内在住のうち、幼稚園に在園または津幡町1号認定を受けている園児数調べ」「平成30年度津幡町内保育園・認定こども園入園児童数調べ」になります。以上の資料を使って説明させていただきます。

まず、つばた幼稚園の現状について、資料2の「平成33年度につばた幼稚園が閉園する場合の園児数の推移等について（案）」で説明させていただきます。つばた幼稚園は、昭和38年4月に津幡幼稚園として発足し、その後、大西山幼稚園として設立され、昭和42年に住の江幼稚園に改名し、現在の津幡郵便局がある場所に整備されました。その後、平成9年に現在地に移転、建設され、園名もそのときにつばた幼稚園に改名しております。これまで55年間にわたり幼児教育を実施してまいりました。資料にありますとおり近年の園児数については、平成11年、12年の156人をピークに徐々に減少しております。これは本町だけではなく日本全体の問題となっております。

す少子化の進展と、働く女性の増加、また核家族化で、教育に加えて長時間の保育を必要とする保育の必要性が上がったこともあります。また、平成13年から町内に民間法人の保育施設が相次いで参入したことで、保護者の選択肢もふえたことが主に影響いたしまして、園児数が減少しております。これに加えて平成27年度に始まりました子ども子育て支援新制度によりまして、さらに町内の保育園が認定こども園という形になり、教育と保育を同時に提供する施設へ移行いたしました。そのことで公立の利用者は減り続けており、現在、つばた幼稚園に関しては、160人の定員に対して42人の園児数となっております。31年度以降につきましては、33年度に閉園する場合の推移になります。また、この資料の31年度のところに記載してありますが、中条南保育園も来年度より民営化し、認定こども園に移行する予定となっております。以上がつばた幼稚園の現状についての説明になります。

資料1にお戻りください。こうしたつばた幼稚園の現状を踏まえたうえで、今後、園児数の増加があまり見込まれないこと、また民間の施設が充実してきたことで、公立の幼稚園として幼児教育を提供する役割はなくなってきたのではないかと思います。また、県内においても13園あった国公立の幼稚園は、現在3園にまで減っております。このような現状と、最も考えなければならないのが子どもの成長についてですが、就学前の子どもにとって望ましい環境は一定の集団規模の中で子ども同士が相互に影響しあい、先生に教わることでなく、集団での体験をとおしてお互いに身につく社会性の育ちを考えたとき、新たに充実した保育・教育環境を提供することが重要であるとの考え方から、現在のつばた幼稚園を閉園する方向で検討するものであります。

それでは「平成33年度につばた幼稚園が閉園する場合の流れについて（案）」ご説明させていただきます。この案につきましては、在園時の保護者への配慮から閉園の意向を公表したのち、平成31年度に新たに入園する3歳児が卒園するまで運営を継続し、平成33年度末をもって閉園することを想定したものとなっております。ただ、閉園を公表した段階で新たに入園する3歳児は皆無であることも予想され、また在園児においても卒園を待たずに他園へ転園することも考慮したいと考えております。以下、33年度までの流れとして入園手続きを考えた場合、例年入園手続きは10月に次年度の募集を行っておりますので、これを基本とした考えになります。平成30年度においては、10月に来年度の平成31年度の園児募集を行います。33年度に閉園ということを想定した場合、33年度に卒園が可能となります3歳から5歳まですべての園児の申込みを受付たいと思っております。31年度におきましては、33年に閉園となりますので、4歳、5歳について申込みを受付たいと考えております。32年度については、5歳児のみの受付とし、次年度の募集を停止したいと考えております。以上が33年度に閉園する場合の流れになります。

続きまして資料は、資料3の「津幡町立つばた幼稚園歳入・歳出決算一覧」になります。まず、1ページ目の資料につきましては、つばた幼稚園の歳入、歳出決算額を出しておりますが、歳出合計から歳入合計を引きますと大体年間でこの2、3年ですけれども3,200万円から3,300万円の財源負担がかかっております。

続きまして、1枚おめくりいただきまして「津幡町内在住のうち、幼稚園に在園または津幡町1号認定を受けている園児数調べ」になります。この表から分かることは、園児数のところを見ていただきますと、つばた幼稚園の園児数は毎年少しずつ減っております。ただ、他の園につきましては、大体同じ人数が続いております。うのけ幼稚園ですが平成29年度は数字が入っていません。これはうのけ幼稚園が29年度から新制度の幼稚園型認定こども園に移行したため、ここに数字は入っておりませんが、現在うのけ幼稚園には津幡町から14人の方が通っております。うのけ幼稚園の2つ下にあります木津幼稚園につきましても、平成30年度から新しくこちらは幼保連携型の認定こども園に移行いたしまして、現在12人の方が通っております。以上が園児数の調べになります。

続きまして3ページ目の「平成30年度の津幡町内保育園・認定こども入園児童数調べ」になります。一番下に合計欄がありますけれども、保育園・認定こども園を利用されている方の人数はこの5年間でほぼ同じ人数となっております。ただ、この中の下から2段目の管外措置の欄になりますが、こちらの29、30年度につきましては、28年度20人であったところ29年度は40人にふえております。これが先ほどご説明いたしましたうのけ幼稚園に1号認定として入っている方が、こちらにカウントされることになりましたので20人ふえております。30年度も同じく42人ということで、28年度から比較すると1号認定のうのけ幼稚園と木津幼稚園がふえたことで、管外措置の方がふえたことになっております。

以上が資料の説明になります。

○竹田 学教育部長 今ほど羽塚課長から資料の説明と、案といたしまして平成33年度につばた幼稚園が閉園する場合の流れと、園児数の推移を案という形で示させていただきました。

この件に関しまして、皆さまからご意見をお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。よろしくお願いします。

○矢田富郎町長 幼稚園が閉園する場合の流れについての案を説明してもらったのですが、33年度に閉園することを前提にして説明していただきましたけれども、もし、来年とか再来年にとんでもないたくさんの方が、子どもが来たらどうしますか。

○竹田 学教育部長 想定していないので……。

○矢田富郎町長 そういうことはあり得ないのですか。

○竹田 学教育部長 絶対とは言えませんが、園児数の推移という資料がありますが、平成27年度にちいろばと住吉保育園が認定こども園となって以来数字が下がってきております。また、31年度には中条南保育園も認定こども園になると聞いており、それも含めて園児数が若干減っていることも考えますと、これ以降極端にふえるということは、現状では想定できないのではないかなと思って、こういった資料を作成させていただいた次第です。

○矢田富郎町長 それでしたら増やそうということ、例えば、町外の園児をつばた幼稚園に持ってこさせようというような仕掛けはしたのでしょうか。

○羽塚誠一学校教育課長 これまでも幼稚園に関しては、住の江幼稚園の時代は実生保育園の5歳児になる方だけが通園していたのですけれども、それを変えて全町を対象にいたしましたし、早く終わりますので、預かり保育という形でサービスもしてきております。今までも長くいるようなサービスをさせていただいたり、夏休みも預かったりしています。

○矢田富郎町長 それでも人が来なかったということですか。

○羽塚誠一学校教育課長 はい。例えば、民間では送迎バスというサービスも町としては難しいところがあります。

○矢田富郎町長 分かっていて聞いていると思われるかもしれませんが、例えば、町外の幼稚園に行っている子どもの父兄に対して、つばた幼稚園に行きませんかというような働きかけみたいなことはしてはいけないのでしょうか、そうでないのであればしたことはあるのでしょうか。

○羽塚誠一学校教育課長 そういった働きかけはしていません。幼稚園の選択は、保護者にありまして、保護者が選ぶという形になります。

○山本祝男教育委員 逆に他市町から受入れている人もいるのですか。

○竹田 学教育部長 つばた幼稚園に来ている子はいないです。

○山本祝男教育委員 出ていく一方ですか。

○竹田 学教育部長 私立幼稚園はバスで送り迎えしていますが、津幡町では幼稚園バスを運営していませんので、基本的にはそうなります。

○山本祝男教育委員 いまさらバスを出すということではできないというか、ないと思いますが、単にバスだけではなくて、保護者さんの問題もあると思いますが。

○大西寿雅子教育委員 私立の幼稚園は、テレビでこんな教育をしていますみたいなことをコマーシャルしていますし、そういう影響も大きいのかなと思います。公立ではなかなかそこまではできないですけども、私立ではそういうことがあるので、コマーシャルの力は大きいのかなと。

○矢田富郎町長 そういつても、そのままどうぞというのも面白くないですね。

○大西寿雅子教育委員 そうですね。

○矢田富郎町長 難しいことをいうわけでもないのですが、素朴な気持ちの中で、そういった対策を講じたことがあるのかなという思いもありましたし、ただ指を咥えているのもどうなのかという思いもあります。

○羽塚誠一学校教育課長 保育園の場合ですと、まず仕事があることが条件ですし、認定を受けたうえで、自分で保育園をどこを選ぶか、それとサービスの違いがありますので、ここまで仕事をしているから延長の長いところをとということで、そういうふうを選択肢で選びます。幼稚園の場合は、あくまでも認定の前に自分がどこに行きたいか、どこの教育を選ぶかというところで幼稚園を選んでいきます。

○矢田富郎町長 先ほどからいろんなことを申しあげましたが、最終的には我々の公立の保育園を将来は認定こども園にシフトしようということであるならば、幼稚園そのものが必要なのかどうか。もう一つは、県内市町の公立幼稚園は、白山市と津幡にしかないんですね。13の市町にあった幼稚園がなくなっているということもあって、もう一つは、毎年毎年、つばた幼稚園は何人かということを知っていたわけではないのですが、去年が16人で、今年が11人の入園で足しても40人ぐらいにしかならない。定数の4分の1にしかなくなっていないということであれば、要するに選択してくれる人も少ないということになるわけですね。そういうことであれば、あえて存続していく必要があるのかなという気もするんです。閉園するなら来年閉園し、今いる子ども達をどこかへ、皆をちゃんと振り分けてやれるようなことをしてあげればそれでもいいのかなと、それくらいの思いを持っているということだけをご理解をいただきたいなと思います。

○吉田克也教育長 資料2の園児数の推移の資料ですけれども、平成17年度まで100人以上の園児がいたわけですね。ちいさな保育園が開園すると同時に一気に67人という数になって、その後しばらく60人から80人ぐらいの間で推移していたんですけれども、この後、平成26年に63人になって、その後55、46と減ってきたところです。明確な根拠はないですけれども、まず町全体の出生数が減少してきているということが一つと、それから保護者のニーズが共働き家庭とかを含めて保育の延長というところと、認定こども園がふえたことによって、これまでの保育だけではなくて、教育の部分もあわせて行うことになったということで、幼稚園教育との教育内容の違いがあまりなくなってきたというところも少しあるのではないかなと思っています。

つばた幼稚園に関しては、教育内容については胸を張って県の大会や、全国大会で発表できる

ような内容をしているわけですが、残念なことに今の保護者のニーズから見ると、それが少なくなっているという現実があるのではないかなと思っています。これまでも園児を増やすことについて、町長さんがおっしゃるようにどれだけ努力したかといいますと、現場では十分努力してくれたと思うのですが、行政としてどれだけできたかという反省もあるわけですが、この減少傾向になかなか歯止めをかけることができないという現状から、現在通っている園児につきましては、教育内容をできるだけ保障できるように責任をもって卒園させていく、それから今の3歳児についてもできれば年下の子どもたちが入ってくることによって、異年齢のつながりができるようにはしていきたいということで、来年度の募集を行いたいと思います。ただ、それに対して保護者がどう判断するかということについてはなかなか分からないわけで、来年度10人以上の入園があるか、場合によって来年度の入園者に対しては、卒園は保障できる予定ではあるんですけれども、閉園ということになれば来年度から一桁に減ってしまうのは、今は何とも言えない状況かなと思っています。これが事務局で考えている現状ではベターな流れかなと思っ
ての案です。

○吉田二郎総務課長 教育長さんがおっしゃるように、現場では夏休みの保育、本来なら夏休みの保育はないんですけれども、夏休みの保育をしたり、延長保育をしたりとか努力はしてきたところですが、ただ民間のサービスに今のところ負けていったと、ただ教育長さんがおっしゃるように教育の質というのが県の指導主事の要請訪問をしながら、毎年毎年保育の質の向上を本当に一生懸命に努力してきました。

○竹田 学教育部長 契約内容を変更すれば可能なかもしれませんが、現状の借地の契約でいきますと平成37年の3月31日までに更地にして、地権者さんには返却するとなっていて、これも要因の一つになっていると思っています。契約延長の話をすればということになるかと思いますが、現状はそういう形でもあります。

○矢田富郎町長 さくらとか、実生とか、ちいろばとか、住吉というのは、割合に園児多いですね。

○羽塚誠一学校教育課長 そうです。

○矢田富郎町長 100パーセントではないけれども、9割は入っているんですね。

○羽塚誠一学校教育課長 スタートから定員に近い状態で民間はスタートしています。あと途中入園の方が町立のほうに入ってくるという形でずっときています。

○矢田富郎町長 公立の保育園がすべて認定こども園になったら、町外に出ている子どもたちが戻ってくる可能性はあるのでしょうか。

○羽塚誠一学校教育課長 保育園を使っている方では多分変わらず、近い方を選ぶので戻ってくることはあまりないのかなと思います。送迎を考えるとどうしても仕事に近いところを選ぶのかなと思います。

○矢田富郎町長 今日は、別に結論を出すわけじゃないのですね。

○竹田 学教育部長 こういった格好で進めていくということを前提に進めさせていただいて、冒頭で羽塚課長も言いましたけれど、広報つばたで募集をする形……。

○矢田富郎町長 10月ですね。

○竹田 学教育部長 10月ですけれどもそれまでには決めておかないと、これがもう1年延びるという形にもなりますので。

○矢田富郎町長 今年は3歳、4歳、5歳の募集をかけるわけですね。ただし、来年からは3歳児はありませんよという括弧書きを入れるのですか。

○竹田 学教育部長 入れます。3歳児以降の募集をしないということを、町民、利用者の方に前もって広報しておかないと、初めて聞いたという話や、こういう話があったならほかの幼稚園に行っていたという話が出てくると思います。現状の3歳児、つばた幼稚園にいらっしゃる方にはそういう話を一つもしていないので、今までどおりでいけると思っているんですけれども、そういったことも考えて、来年度の募集については3歳児もしたいと、その次の3歳児からは募集をしないというような流れで行かないと、町民サービスなどを考えた場合に、どうして突然こんなことになるのかという話にもなるかと思えます。

資料1で幼稚園が閉園する場合の流れについての案という形で提案させていただいているんですけれども、本日の会議で審議させていただいて、7月の夏休み前に在園児の保護者の方にこういう方針で、町として行っていきたいということを説明していきたいと思っています。広報も考えますと、毎年9月号には入園募集の予告記事を掲載していますので、広報9月号には出したいなと思っていますし、議会にも8月に意向を公表したいということで、事務的にはこういう流れで進めていければ一番いい形かなと思っています。これを逃すと、もう1年とか、1年ずつ送っていく形になるのではないかと、私ども事務局は思っています。

○山本祝男教育委員 今気づいたんですけれども、7月に保護者、8月に議会、流れとしてどっちが先の方がいいのですか。

○矢田富郎町長 どっちが先かというのは難しい話で、一緒にできないものですから、必ず時間差ができます。それが3日なのか、2週間なのかは分かりませんが。

○山本祝男教育委員 もちろんそうなんですけれども、執行部としてこれでやり易いのですか。

○竹田 学教育部長 これまでも在園しているPTAに先に説明したあとで、議会で公式に発表しています。

○山本祝男教育委員 この議会というのは全員協議会のことをいっているわけですか。

○竹田 学教育部長 公式発表としては、そうなります。

○羽塚誠一学校教育課長 実際、中条南保育園の民営化のときも先に保護者会説明をした後で、民営化計画を全員協議会で発表しました。

○山本祝男教育委員 それと少し気になったのは、町長さんも先ほどおっしゃったように、反対運動が起きて子どもがふえたらどうするか。

○矢田富郎町長 3年延ばしますというわけにはいきませんからね。

○山本祝男教育委員 そうなってもこういう流れの中でやるということをきちっと言わないといけません。人数がふえたから、それならやめましょうかという、そんな話だと初めからしないほうがいいです。

○竹田 学教育部長 その考えはないというのはおかしいんですけども、そう思っています。いずれにしろ37年3月31日までに返さなければならないという大前提が残っていますので、幼稚園用地が町のものですと……。

○山本祝男教育委員 37年は契約上の問題であって、地権者からまだいいよと言われたらどうしますか。

○矢田富郎町長 今のところ接触はしていないですね。

○竹田 学教育部長 まだしていません。

○山本祝男教育委員 延ばしてもいいよと言われたらどうしますか。

○竹田 学教育部長 借地料の交渉になってくるかと思いますが、幼稚園用地としては37年3月31日までと考えています。

○山本祝男教育委員 ここは何坪ありましたか。

○羽塚誠一学校教育課長 敷地面積は、3,911平方メートル、1,185坪です。借りている部分は、2,042平方メートルです。

○山本祝男教育委員 約600坪で田んぼを作っても、わずかの収入にしかありませんね。

それと先ほども少し言いましたが、廃園するにしても、先ほどもよく出ている教育、幼稚園の教育というものに対して固執する保護者さんもいるわけで、保育でなく、教育ということに対して、ここがなくなっても幼児教育というものがきちっと確保できるということと、経済的な負担、通園の負担も含めて、従来と比べてあまり差が出てこないと、あまり負担がふえることがないと

というようなことをきちっと整理しておかなければと思います。このままでいくと10人前後の子どもたちに対しては、教育にしても小規模というところで問題が生じてくることがあれば、そういう意味では自然の流れの中で、廃園もやむを得ないのかなと思います。

○矢田富郎町長 山本さんが言われるような教育という問題について言うと、保育園と幼稚園の違いというのは小学校に行ってから違うんですね。

○吉田克也教育長 そうです。

○矢田富郎町長 そういうことを考えると、つばた幼稚園がなくなるころに、公立の保育園も認定こども園化となるようなそんな仕掛けを考えなければならないかもしれませんね。

○山本祝男教育委員 そこはやはり公立同士だからしやすいということはあるですね。

○矢田富郎町長 だだ、山本さんが言われた費用の問題、これはそれほど変わらないですね。

○竹田 学教育部長 私どもは変わらないと思っています。

○吉田二郎総務課長 教育長さん、先ほど山本委員さんが言われたんですけれど、例えば公立の保育園が認定こども園となって1号認定の子どもを預かるとなると、県教委からの要請訪問というものは受けられるのでしょうか。1号認定の公立の部分について。

○吉田克也教育長 要請訪問ですか。これはそういう実績があるのかどうか、それから可能なのかどうか。ただ、町には指導主事がいますので、自分が3年間、管理と指導を兼務していたときも保育園の方へ実際は少し指導に回らせていただきましたので、県の指導主事が無理であれば、町の指導主事がそういった認定こども園へ、公立であれば福祉の分野と連携しながら訪問して、教職員の研修をするということは十分可能だと思います。

○山本祝男教育委員 私立にはそういう指導はないのですか。

○吉田克也教育長 私立へはそういうことはありません。

○吉田二郎総務課長 何で私立に来てくれないのかということはしょっちゅう言われていました。それは公立の強みでした。

○吉田克也教育長 ただ、幼保小連携事業などには代表の方に来ていただいて、同じ町内ですから職員の研修にもお声かけはさせていただきました。

○大西寿雅子教育委員 保護者さんが、こども園になった時点で教育という部分で納得のできる教育をしているということを示して、津幡町のこども園にきていただけるようなPRをしていく必要があるのかもしれませんね。やはり幼稚園に出されている保護者さんというのは自分でそこがいいというこだわりを持って行かれているということがあってと思います。それがなくなるといことなので、それなりのこども園を作っていないと納得されないんじゃないでしょうか。

○吉田克也教育長 公立の中条東と井上保育園が残りますので、その中で教育の分野、こういった教育ができるような認定こども園の方向性というものも、福祉部局と連携しながら取り組んでいけば保護者の理解も得られるかなと、実際に幼稚園での教育を経験した職員もいるわけなので、そういった人を配置して、そして研修もできる体制を組んでいけば、そこは担保できるのかなと思います。

○大西寿雅子教育委員 保育の先生もがんばって保育プラス教育もやっていらっしゃるの私たちも分かっていますし、つばた幼稚園の先生も本当に研究授業とかたくさんしてらっしゃって、そこが親には見えていないところがあるのかなと思います。私立だったら英語教育に力をいれているとか、運動をしているとか、何か主だった特色を出すとかそういうところがあるから、それに親が魅力を感じて通われる方もいらっしゃるかなと思います。

○竹田 学教育部長 いろいろご意見もいただいておりますが、総合教育会議は、議件という形ではなく協議・調整事項という形で進めていくということで、決定機関ではないのですけれども、皆さま方に審議していただいています。園児数のことも考えたり、いろいろな子どもを取巻く環境とかそういったものも含めまして、事務局の方で考えましたのがこの案でございます。できればこの案に基づいて今後進めていければと思っていますけれどもいかがなものでしょうか。

○矢田富郎町長 教育委員さんがメインですから、別に多数決というわけではないですけども、こういう形で資料1の閉園する場合の流れに沿って進めていきたいということでもいいのか、皆さん方にお尋ねしたほうがいいのではないかと思います、正元さんどうですか。

○正元喜博教育委員 特別、反対はしません。

○矢田富郎町長 山本さん。

○山本祝男教育委員 基本的には私は、先ほど言ったいくつかのことをクリアしていただければということであれば、これでいいです。子どもの数がふえていかないということになると、やはり……。

○大西寿雅子教育委員 人数的に少人数で集团的な教育ができないということからみても、この流れに沿って閉園になるのかなと思うのですけれど、後は受入先、先ほども言いましたようにこども園が幼稚園教育を……。

○矢田富郎町長 ちゃんとした受入先があって初めて……。

○大西寿雅子教育委員 作ってあげれば納得されるのかなと思います。

○竹田 学教育部長 鳥越委員さん、よろしいですか。

○鳥越千春教育委員 はい。

○竹田 学教育部長 いくつか課題をいただきましたけれども、そういった面も含めて、公立保育園の認定こども園化につきましても、組織機構の話になってきますので、総務部局、福祉部局と相談させていただきながら進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

○竹田 学教育部長 それでは協議・調整事項については、以上になります。

協議・調整事項のその他でございますけれども事務局からは特にございません。皆さま方からその他ということで、何かご意見がありましたら、発言いただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。……特にないようでしたら、以上をもちまして、総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

〔閉会〕 16時43分